

氏名	高 本 和 彦
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3274号
学位授与の日付	平成10年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	脳梗塞の発症要因に関する疫学的研究
論文審査委員	教授 吉良 尚平 教授 阿部 康二 教授 大本 堯史

学位論文内容の要旨

都市化の進展が推定される農山村地域において、脳梗塞の発症要因に関する症例対照研究を実施し、発症前の対象地域の生活習慣、精神的ストレスの強さ及び発症直前に受診していた健康診査の検査値所見等と脳梗塞発症との関連について検討を行ったが、農山村地域の危険因子として従来確認されていた、高血圧、耐糖能異常、心房細動などの前病状態及び高塩分高糖質食習慣とともに、精神的ストレス、喫煙、HDL コレステロール低値、総コレステロール高値、高脂肪食嗜好などの新しい危険因子の追加が確認された。また、危険因子間の相対的な関連の強さを多変量解析を用いて検討したところ、塩分摂取に関する食習慣、拡張期高血圧、低 HDL コレステロール血症が影響の強い危険因子として抽出された。さらに、収縮期高血圧が、拡張期高血圧とともに高いオッズ比を示したことから、発症年齢の推移にも注目すべきことが示唆され、今後は、最近の農山村地域の生活習慣の近代化を視野に入れ、ストレスの増大、喫煙、運動不足などにも注目した予防医学的戦略目標の必要性が認められた。

論文審査結果の要旨

本研究は、近年の農山村地域における脳梗塞の発症要因を症例対照研究で検討したものである。脳梗塞発症前の生活習慣、精神的ストレスの強さ、健康診査の検査値所見と発症との関連を調べた結果、従来から農山村地域での危険因子と考えられていた、高血圧、耐糖能異常、心房細動などの前病状態と高塩分高糖質食習慣に加えて、精神的ストレス、喫煙、HDL コレステロール低値、総コレステロール高値、高脂肪食嗜好などが新しい危険因子として抽出された。これらの検討結果から、近年の農山村地域においても生活習慣の都市化が推定されるので、精神的ストレスや喫煙などに対する予防医学的戦略が必要であると結論している。よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。